

2009年サケ・マス

単位：数量，1000トン、価格，円/kg

数 量

年	漁獲(生産)			加工 塩蔵	輸入 生冷	輸出 生冷	東 京			缶詰	消費支出		年末 在庫	日露 協定	アキサケ		
	サケ	マス	養ギン				生	冷	塩蔵		生(千)	塩(千)			合計	北海道	本州
20	167.5	12.8	12.8	94.4	247.8	45.1	6.1	43.2	14.6	3.8	3,098	1,801	105.0	12.7	159.6	121.5	38.2
21	205.9	18.5	15.8	95.7	240.3	55.6	7.0	32.2	11.9	3.5	3,149	1,614	106.8	9.74	197.3	158.2	39.1
%	123	145	123	101	97	123	115	74	81	94	102	90	102	76	124	130	102

価 格

年	アキサケ			輸 入	輸 出	東 京			消費支出	
	合計	北海道	本州			生	冷	塩蔵	生(円)	塩(円)
20	435	449	393	525	228	877	563	691	4,218	2,195
21	319	332	266	554	236	809	579	731	4,136	2,128
%	73	74	68	106	104	92	103	106	98	97

漁 獲 量

21年の北洋サケマス漁業は、ロシア200海里枠が中型船4,480トン（前年5,775トン）、小型船2,400トン（前年3,960トン）で中型船、小型船とも減少となった。入漁料は中型・小型とも前年（307円/kg）並みであった。また、割当枠はベニ前年同様、トキがかなり減少、マスやや減少であった。またオホーツク建マスは倍増した。

日本200海里枠は2,855トンで引続き前年（カラフトマス主体3,005トン）をやや下回った。

秋サケ沿岸漁獲量は、北海道4,544万尾（前年3,654万尾）、本州1,204万尾（前年1,211万尾）、トン数では北海道15.8万トン（前年12.1万トン）、本州3.9万トン（前年3.82万トン）であった。

北海道では前年を上回り、一昨年並みに戻した。本州では前年を引続きやや上回った。

価格は、北海道での漁が不漁予想から一転好漁となり、結果的に増産となり昨年をかなり下回った。また本州も北海道同様下落した。

魚体は、北海道3.48kg（前年3.32kg）、本州3.24kg（前年3.16kg）で、今年は北海道、本州とも前年よりやや大きかった。

国内養殖銀ザケは、1.58万トン（前年1.28万トン）でやや増産傾向にある。

輸 出 入

21年のサケマス輸入量は、24万トンで前年（24.8万トン）をやや下回った。

本年、天然ではベニがほぼ前年並みであったが、養殖物ではギンがやや減少、トラウトが減少した。また、冷凍フィレーは前年並みであった。

天然物の国別輸入量は（全てのサケマス類、フィレーを除く）、米国2万トン（前年1.8万トン）、カナダ0.8千トン（前年0.8千トン）、ロシア2.2万トン（前年2.6万トン）で米国が増加、ロシアが引続き減少となった。

また、1999年初めて米国をぬいてトップにたったチリを始めノルウェー等各国からの養殖系サケの輸入は、依然一時ほどの伸びはないものの順調に推移している。また、世界的にも堅調なEU、米国、中国等の需要も伸びているが、本年は前年来のリーマンショックもあって、EUでの伸びが止まり、ノルウェーの養殖サケ（アトラン主体）の国内搬入も伸びた。本年の国別輸入量はチリ12.1万トンで前年（12.9万トン）を下回った。ノルウェーはEU需要の低迷もあって2.6万トンで、前

年(2.2万トン)を上回った。またニュージーランド(生・冷)、デンマーク(冷)、オーストラリア(生)等からの輸入は引続きみられているが、量的には少ないことに変わりはない。

輸入価格は、554円でチリ銀の上げもあって前年(525円)を上回った。

また、近年まとまった輸出がみられていたアキサケは、本年国内生産も増加したこともあって再度増加基調になり、5.6万トンと前年(4.5万トン)を上回った。

輸出先は、依然中国4.7万トン(前年約3.8万トン)で本年も前年並みの85%のシェアであった。続いてタイ4,166トン(前年:3,457トン)、ベトナム2,837トン(前年:2,784トン)、台湾678トン(前年:743トン)、韓国72トン(前年:215トン)でベトナムを除くと減少した。

また輸出価格は、特に海外需要も依然強く、前年(228円/kg)をやや上回る236円/kgであった。

総供給量

本年は沖獲、輸入量が減少したものの秋サケ、建てマスの天然系の増加を反映し、総供給量は、前年をやや下回る52万トンとなった。

	20年	21年	対比(%)
総供給量	516,100	526,100	102
沖獲漁獲量	12,700	9,700	76
秋サケ漁獲量	160,900	197,000	122
建マス漁獲量	8,400	14,500	173
ギンサケ漁獲量	12,800	15,600	122
輸入量	247,800	240,300	97
期首在庫量	118,600	104,600	88
輸出	45,100	55,600	123

消費地入荷量と価格

サケの東京消費地入荷量は、生7千トン(前年6.1千トン)、冷3.2万トン(前年4.3万トン)、塩1.2万トン(前年1.5万トン)であった。

本年の入荷の特徴は、北海道の秋サケの好漁もあって生鮮のみが増加したが、その他冷凍原料及び製品は減少したことである。

平成年代に入って順調に伸び定着してきた生秋サケは、本年は北海道の漁獲増加を反映し、安値もあって切り身、生フィレーでの販売が全国的に定着した。したがって、本年も好漁を受けて前年をやや上回った。こうした結果は家計支出にも反映され生は数量的に伸びている。

価格は、生809円(前年877円)、冷579円(前年563円)、塩731円(前年691円)と入荷量を反映した結果となった。